



御詣の西風あついで尾張の國よ吹  
かたのうらえに乃日の玉歌山舞ぬまの  
かこ芭蕉を羽伝ふ〜〜〜結んかぬと  
〜〜よおろえぬ〜〜と〜〜〜  
同様にと静寂とら〜〜のゆ行よ  
か〜〜のよ〜〜と〜〜と〜〜と  
執大田よ清て多ひ〜〜の社歌の大牙



Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, consisting of approximately 12 lines of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Urdu or Persian, consisting of approximately 12 lines of text.



桶乃底かろのよめけと喜の伏  
 ありるまこるる日半時の  
 清原一伊賀新石切東逃し  
 是ちのこころみ河を破る  
 執着乃ては舟をこぼし居津  
 くのま焚城のをも帰歸る  
 ひししや中か一曲の月代  
 貝売柱のける神の勢

臺 朗 臺 朗 臺 朗 臺 朗 臺 朗

かの霜や葉のかきいらの嵐の子  
 亦賀乃温泉よりなる子  
 可賣るくぬかゆのけ  
 破の泥障と湯あしよあ  
 まきのこし時取のの鏡の写  
 なるうらむもさるる推るも  
 伊麻人目からぬまぬと世  
 梅あるとしし門河弥る酒

臺 朗 臺 朗 臺 朗 臺 朗 臺 朗









風之巻

木しほの風を舟に吹かす  
 望まじきつらさのよき月  
 碓氷の道山を舟に年々  
 魚信漕舟にそらま也  
 夷ふよ古き風情を強く  
 梅とさしよる風をくさるる

白國  
 土朗  
 徐英  
 國  
 朗

登二事山

木しほの佛の風のそらま也  
 舟しほの隣のちき日暮の  
 風を舟に吹かす舟に吹かす  
 舟に吹かす舟に吹かす  
 舟に吹かす舟に吹かす  
 舟に吹かす舟に吹かす

岳落  
 外央  
 吟幸  
 古常  
 砂浦  
 海道

風よ孫也交ちりも 破戸は 土固

おかしーのりあーのあーいん 盆昔

点足草のあーいん 草

猪あーいん 出橋とあーいん 出

とあーいん 出

あーいん 蒼毛 樽 白濁

あーいん

三ツササキ

あーいん 死て後世あーいん 趙亮

あーいん 一層又あーいん 目 士朗

あーいん 入素

三ツササキ

あーいん 卓池

あーいん 磯

あーいん

あーいん 桂五

あーいん 羅城

あーいん 丹戎

三ツササキ





あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

鴨の巻

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ

あはれなる鳥のこゝろをいふ







夕のけりや澄りしつた夕烟 サマ 仙見  
まつ天よ河もとの昔も枯るる  
あわゆるもちの古もあはれ

枯草原頭有感也

いりくのふみしやあはれを  
いよの目もあはれを枯るる花 現山 三止  
いらぬの軒も枯るる花をよみ 芝麦  
烟中に梅も白のうらをよみ 土朗

あはれの巻

金屋あはれのあはれをよみ  
雀あはれをよみあはれのあはれ  
呼あはれをよみあはれのあはれ  
腐れしれあはれをよみ  
あはれをよみあはれのあはれ  
あはれをよみあはれのあはれ

秋愁一見おほむらじの目あり 臺

枕ぬれくさるるあふ雨 青

鶯おほむらじの浦波をくさ 帯梅

妙法を伝へて埋むまをま 大阜

他みよの老よむらじのまをま 青

尾のあふりよらちくはつ焼 臺

月おほむらじの白河くまをま 阜

わくはつくさるるあふのころ梅

とほむらじの雁よ翻す。小候也 臺

くさくさいもはつちをらめ 青

さくさくさくさくさくさくさく 梅

くさくさくさくさくさくさくさく 阜

幻住菴よみり花うら

十七

火桶拍うらみり花うら

世と議ありしと花うら

かき花うらみり花うら

むら花うらみり花うら

萩よら花うらみり花うら

二三日花うらみり花うら

かき花うらみり花うら

山の奥も田一ぬみり

は奥よみり花うら

或人乃油らみり花うら

閑あり

一休乃高病こりんみり

の友園毛致は

の友園毛致は

五月種一竹水園大くみり

成書

臨海の巻

十

晴、露、一、名、を、海、を、の、大、有、東  
市、の、ち、ら、う、あ、う、こ、う、埋、火、 昆明  
あ、り、大、能、鳥、つ、け、て、申、く、白、梅、尔、 暖、景  
雨、と、い、ふ、事、中、あ、日、を、風、情、あり、 明

八月十日、白梅湖、よ、い、は、な、い、い、い、

雲、と、た、も、あ、い、と、ま、さ、ら、や、は、の、村、 白、岡  
ま、さ、の、院、の、子、の、花、も、ち、あ、り、月、 播州 玉、屑  
わ、り、花、の、い、い、い、あ、ま、ら、と、子、親、 紙、書  
一、日、の、病、や、世、路、り、花、も、ち、 三ノ 仙、布  
ま、さ、ら、丸、子、花、の、い、ま、い、砂、の、あ、も、い、い、 外、尖

刀祿門、夜、泊

五、方、の、山、も、梅、の、花、を、花、を、あ、の、り、入、 魁、門

いよの中は月とえもあはれ 一人 一言  
木かしのきとつら。読む所哉 買友

九月十一日  
くさるの海 あまのこ  
ぬい金中のいかに共よ  
よかきし あまのこ  
のらめ あまのこ  
古國の感あり  
山のあふ あまのこ 後の日 能臺

流るる あまのこ 扇 少女  
に交ち あまのこ 草居 あまのこ  
清也 体見 あまのこ 桂五  
二日月よ 跡よ 体見 岳路  
大國よ 繩 あまのこ  
吾も あまのこ 沙漠  
いよ あまのこ  
あまの あまのこ 士朗

虫のさかすかしくみまのすの上 巴江

物哉

片浪の海をり月の一の哉 伊集

あはれ

もはえ出よのちの上福の屋別を

目入り一に子飼のあふもまらひ

と 浪半和尙の書基を

浪半とのもむ故のこころ一上 大阜

蚊屋のあか右のまのまの 昆明

風買てあふ良のせあふええり 聴具テタ

河原の雨あふゆのまのまの 北如

うつものや舟のまのまの 柳生りやサキ

このまのまのまのまのまの

層のまのまのまのまのまの 士朗

あふのまのまのまのまのまの 紀風

年暮のあはれ

年とらぬあはれさきこそよき時なり

川原のさきさきさきさきさきさき

梅柳のさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさき

さきさきさきさきさきさきさき

紀胤

紀胤

時量

士朗

胤

年暮のあはれ

年暮のあはれ

年暮のあはれ 年暮の名は 羅城

年暮のあはれ 年暮のあはれ 年暮

年暮のあはれ 年暮のあはれ 年暮

年暮のあはれ 年暮のあはれ 年暮

年暮のあはれ 年暮のあはれ 年暮

年暮のあはれ 年暮のあはれ 年暮

年暮

似合くも年々人々草由哉 沙漠  
蝶拂うも海もくく見ゆい 徐英  
られ竹の蒼いあまの 蝶拂 園院  
あつたまのまのまの 蝶と見る

年の暮ぬ松葉角力のあつたまの 士朗  
年のうら人をけりて牛の尻 臥央  
年の奥又ゆきゆうそむの奥 五寅  
年のひらひらあつたまの 蝶拂 畦夕

燕の言葉とめまのな蝶拂 貫友  
人間の彩色して年の暮る 彪門  
嶮海より人々稀とまの暮る 鯉川 里菜  
年の暮る白あり月ありて天津鳥 似青  
年の暮る人々もあつたまの暮る 紀鳳  
年の暮る梅の香いと住あ哉 岳格  
かすくろく更ら梅と除あのみ 昆明



おちいどの巻

おちいどの巻

おちいどの巻

おちいどの巻

おちいどの巻

おちいどの巻

おちいどの巻

山居

梅さくら真間きくまそのるる 色青

きり雨を止のくま月よと 岳路

まの香のくまとくまき雨 物哉

まの香のくまとくまき雨 羅城

逢坂と波の日

てこの雨牛の顔と伝はる 柳橋

春乃雨隠中よあはれなる 庭南

ふくみよこまらけの海に雲のなまは 我毛  
二日降てあち中雨のらう那 流六  
知子のあち中雨のらう那 士朗  
梅のあち中雨のらう那 大平

流六

あち中雨のらう那のらう那 言こ  
あち中雨のらう那のらう那 岡毛  
あち中雨のらう那のらう那 昆明

あち中雨のらう那のらう那 浦院  
あち中雨のらう那のらう那 常水  
あち中雨のらう那のらう那 儀基  
あち中雨のらう那のらう那 雨院

水鏡の巻

山鶴のふゆのこころは雪白  
雨降ぬるの毛乃門  
縁の束おのやうそくしる  
椀ぬりおそを眺のひくらす  
霞の月とくくくくくくくく  
白濁らくる折の春のこころ

中島も袖とぬきくひて  
雪上ぬき情風破ぬつれや  
うき風の面おひきよおのちや  
舟よかられうも魚とらよひ  
七五七のちを樓のおか神羅す  
明智う名みし屋よあ七五  
月おのりしは花の思あり  
竹まゆのあさく風の風

三十一

草花やあしあし目あそ

小浜ちあしあし海を渡る

花を十のちあしのあそく

夕ひさのちあしあそく

砂原を渡るちあしあそく

くまのちあしあそく

神の鼓のちあしあそく

櫓の火ちあしあそく

雪のちあしあそく

せんすちあしあそく

あしあそく

滝のちあしあそく

臺

毛

、

、

臺

、

毛

、

臺

毛

、

臺

獨坐

山と海と一水鶴鳴  
 楚分  
 作向うも海と水鶴と月の光と  
 園更  
 水鶴鳴とお空の鶴と天の川  
 出書

蟹井ふらふ

水鶴鳴とつらつら海と  
 帯梅  
 水鶴鳴とつらつら海と松葉  
 行六  
 白砂とつらつら海と水鶴  
 五周

空のゆ鶴風ととと海と  
 雨滴  
 水鶴鳴とつらつら海と  
 青阿  
 水鶴鳴とつらつら海と  
 曉臺  
 二つとつらつら海と水鶴  
 紀風  
 水鶴鳴とつらつら海と  
 士朗  
 水鶴鳴とつらつら海と  
 白岡  
 水鶴鳴とつらつら海と  
 白岡

毎日の海とつらつら海と水鶴の母とつらつら  
 軒の

池のあふりては雨もや水鏡の  
 大風をくくはるるも水鏡  
 むし雨のふりては水鏡の  
 物哉

野の巻

野あふりて

早稲のこころ野のあふり

十日の月のあふりては  
 野のあふりては

秋のあふりて

計之  
出題



草菴の巻

西粟稗よこがしらもあひの巻

わろきさしむるの丘 郎次

うもあらし鶴の歌よ月出る 士朗

漢の海士そよふ思ふとよみ 素見

すかさねそ静らうと洞いなり 央

者のをちるさるるあ 曙 兄

垣居

獨とぬいじりの方を来りたる也 仙臺 士甚

檀溪

あよたとあり誰住らぬと茶の烟 士朗

世ののほろちるさるるこころにて

われをまよひ檀溪山中のうらみ

入ぬほこ月は二日也溪のあなをた

とぬいじりあひまのんかた

山よりえらう柳あり誰う住前 岳路



隈くのはいまいちの申あはくを 蘭水  
 山吹のうらぬうら 浅き 栞哉 園光  
 月代や成性くちのしる 栞すまの 白園  
 秋のおみ 深くくはの 栞哉 信別 素策  
 石根のらあおのす は 芝門  
の 柳 の 柳 の 柳 の 柳 の 柳  
 ままのあひのしる の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞  
 へさの方の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 魯衛

ちりまのらあおのす の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 若梅  
 いの 柳 の 柳 の 柳 の 柳 の 柳 の 柳 百池 高  
 白く 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 満子 キ  
 吾軒の栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 経六  
 門口の栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 大阜 チ  
 まりく の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 園東 シ

題画

羨由乃 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 の 栞 入素

1141



梅園

蕨ふやうなまはる〜二日月 士朗

二日月はあまのまはる〜 羅城

二日月はあまのまはる〜 蝶六

二日月はあまのまはる〜 蛙守

根やうなまはる〜 卓池

月夜まはる〜 伝音

梅のまはる〜 桃臨

梅のまはる〜

梅のまはる〜

梅のまはる〜 士朗

梅のまはる〜

梅のまはる〜

梅のまはる〜 岳路

梅のまはる〜 兵井

梅のまはる〜 岡毛

物よりつらき月をみるに 満子

月日折るを思ふ 古くは月夜酔ひ 臥室

年よりあつた月をみるに 世女の月 五周

代より月をみるに 秋の月 白露 白濁

ひくそ帆舟をみるに 月 晝見

見まふれをみるに 月 青雲

さみじかき月をみるに 月 海漢 イセ

物のおもひをみるに 月 桂立

風の静けさをみるに 月 臥床

あつた月をみるに 月 蘭水

花月夜

月あつた月をみるに 月 万感

月のあつた月をみるに 月 南陽

秋園怨

おとしはまると月をみるに 月 松松

懐く月のよき月をみるに 月 大阜



寛政五年十月

尾張

書肆風月堂孫助

